

タイトル「**2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	危機管理学研究演習Ⅳ		
担当教員	福田 充		
対象学年	2年	開講学期	後期
曜日・時限	火 2		
講義室	1302	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1 [意欲・経験・適性] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察（20%） DP2 [学識・専門技能] 災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能（30%） DP3 [思考力・判断力・表現力] 客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力（30%） DP4 [主体性・多様性・協働性] 多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とコミュニケーションを確立する能力（20%）		
教員の実務経験	2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省や内閣官房では新型インフルエンザ等のパンデミックについての有識者会議や委員会、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。（第1回～第15回）		
成績ターゲット区分	.		
科目概要・キーワード	■ 科目概要 危機管理学に関する修士論文を作成するために、その修士論文のテーマを確立し、アンケート調査やフィールドワークなど実証研究を実施します。そして修士論文を執筆して完成させます。これらの研究プロセスを通じて、学識・専門技能に加え、判断力・思考力・表現力、更には主体性・計画性・協働性等の汎用的能力を開発することを目的とします。 ■ キーワード： リスクコミュニケーション、危機管理学、社会調査、統計分析、プレゼンテーション		
授業の趣旨	■ 副題 オールハザード・アプローチによるリスクコミュニケーション研究の実施と修士論文の執筆、完成 ■ 授業の目的 修士論文の作成のために、この演習Ⅳでは個人研究テーマに基づいて、すでに実施したアンケート調査などの社会調査のデータと分析結果をもとに修士論文を執筆し、完成させます。 危機や社会課題を学術的に探求し、危機管理を解明し社会に普及させる「指導的人材」、危機管理の実践的知識を有する「高度専門職業人」を養成する人材育成に資する演習を実施します。 ■ 授業のポイント 修士論文の完成のために、毎回、修士論文の執筆と経過報告を行います。		
総合到達目標	■ 危機管理学及び法学に関する問題を論理的・批判的に考察することができる。 ・ 危機事態におけるリスクコミュニケーションの諸問題を認識し、課題を発見して認識することができる（第1回～15回）。 ・ 危機事態におけるリスクコミュニケーションを、自己の経験や目標と関連付け、学修意欲につなげることができる（第1回～15回）。 ■ 危機管理学と法学に関する問題を科学的な手法によって分析することができる。 ・ リスクコミュニケーションにおける課題について事例やデータを体系的に収集することができる（第1回～15回）。 ・ リスクコミュニケーションにおける課題について、批判的に分析することができる（第1回～15回）。 ■ 危機管理学と法学に関する問題を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる。 ・ リスクコミュニケーションに関する事象や理論を適切に理解し、活用可能な知識として取り込むことができる（第1回～15回）。 ・ リスクコミュニケーションに関する課題に対して、解決策を構築するための論理的な思考を展開することができる（第1回～15回）。 ・ リスクコミュニケーションに関する課題に関して、社会に政策提言するための口頭又は文章によるコミュニケーションを適切にとることができる（第1回～15回）。		
成績評価方法	■ 授業参加度・演習内で発表、報告する修士論文の執筆状況と、修士論文（15回）50%（DP3, DP4） 15回のうち、10回の演習で修士論文の執筆状況の報告、発表を実施して評価します。 最終的に完成した修士論文（50%） （評価の観点） 修士論文の執筆状況とその内容を評価します。最終的に提出された修士論文の内容についても評価を行います。 （フィードバックの方法）		

	各回の発表後に、演習中に評価・議論を行います。	
履修条件	リスクコミュニケーションに関する修士論文を作成する意思があること。	
履修上の注意点	教科書・参考書を積極的に読み、主体的に学ぶ姿勢が求められる。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス：修士論文執筆の指導と演習実施の方針の説明 ②授業概要 まずはガイダンスとして、危機管理学におけるリスクコミュニケーション研究に基づいて修士論文を作成すること、その修士論文の執筆と演習実施の方針について説明します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 修士論文の原稿執筆を開始する。まずは目次、問題意識について執筆する。 ④復習（120分） 指導を受けた部分について、修士論文を加筆修正する。
	2	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（1） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスをを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	3	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（2） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスをを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	4	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（3） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスをを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	5	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（4） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスをを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	6	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（5） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスをを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	7	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（6） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスをを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	8	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（7） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスをを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。

	9	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（8） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	10	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（9） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	11	①授業テーマ 修士論文の執筆作業と原稿途中経過報告発表（10） ②授業概要 修士論文の原稿執筆の状況を報告し、原稿を発表します。その原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	12	①授業テーマ 修士論文の完成のための修正作業（1） ②授業概要 修士論文の原稿執筆について、全体的に加筆修正を行います。その修正原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	13	①授業テーマ 修士論文の完成のための修正作業（2） ②授業概要 修士論文の原稿執筆について、全体的に加筆修正を行います。その修正原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	14	①授業テーマ 修士論文の完成のための修正作業（3） ②授業概要 修士論文の原稿執筆について、全体的に加筆修正を行います。その修正原稿内容について検討し、指導します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 毎回、自分自身で決めた箇所の修士論文の原稿執筆を行う。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正する。
	15	①授業テーマ 修士論文の完成と最終報告 ②授業概要 修士論文の原稿執筆について、全体的に最終確認して完成させます。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。 ③予習（120分） 修士論文の原稿を完成させる。 ④復習（120分） 演習において報告発表した修士論文の原稿で、アドバイスを受けた箇所を、その指導に基づいて加筆修正して最終完成させる。
関連科目	リスクコミュニケーション特講、危機管理学方法論1（リスクリテラシー）	
教科書	福田充『リスクコミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』（北樹出版）。 福田充『リスクコミュニケーション～多様化する危機を乗り越える』（平凡社新書）。 その他、リスクコミュニケーションに関する海外の英語文献の研究書・論文を適宜教科書として指定する。	
参考書・参考URL	福田充『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』（慶應義塾大学出版会）。 福田充『メディアとテロリズム』（新潮新書）。 福田充編『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』（北樹出版）。 その他、リスクコミュニケーションに関する海外の英語文献の研究書・論文を適宜参考書として指定する。	
連絡先・オフィスアワー	fukuda.mitsuru@nihon-u.ac.jp オフィスアワーについてはオフィスアワー一覧を参照してください。	
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント25%；パブリックセキュリティ25%；グローバルセキュリティ25%；情報セキュリティ25%	

